

文部科学省平成 21 年度「大学教育・学生支援推進事業（テーマ B）」採択
京都文教大学「学びと社会をつなぐ資格連動型キャリア支援プログラム」
終了報告書

目 次

はじめに	1
プログラム概要	2
到達目標	2
取組内容	3
(1)学びに関連した資格講座の開講	3
(2)学部・学科を越えた教員の交流会・研修	3
(3)低学年から就職意識を育成するための社会人講演会	3
学びに関連した資格講座の開講	4
秘書検定講座	4
旅行業務取扱管理者講座	6
日商簿記講座	7
販売士 3 級講座	9
ホームヘルパー 2 級講座	11
PSW 基礎・直前講座	13
色彩検定講座	16
保育士講座	21
学びに関連した資格講座の開講まとめ	22
学部・学科を越えた教員の交流会・研修	24
2009 年度～「落語」のテクニックを授業に生かす～	24
～ゼミ教育を高める集合研修～	24
2010 年度～大学改革における教職協働 ミドルアップ・ミドルダウンの必要性と課題～	24
2011 年度	
～授業の中でUNIPAを活用した運営事例及び学生支援におけるUNIPAの活用事例について～	24
学部・学科を越えた教員の交流会・研修まとめ	25
全体の成果	26
今後の取り組み	26
おわりに	27

はじめに

本学は、2学部、3学科からなる人文・社会系の大学です。学部・学科の構成は人間学部文化人類学科、現代社会学科、臨床心理学部臨床心理学科となっています。この中で、特に文化人類学科は、新入生のアンケートを見ても、具体的に社会に出ていくイメージを持っていないというタイプの学生が比較的多く、それが3回生からの就職活動を難しくしているという問題がありました。また、臨床心理学部の学生は、入学時点では大学院志望が約100名前後となっていますが、実際に大学院に進学できる学生は40人～50人程度であり、途中で大学院を諦める学生も多く、それらの学生も同様の問題がありました。

同時に、本学では学生支援の一環として、各種資格講座や通信教育等の実施をしていましたが、それらに直接関連する授業が少なかったり、学生のニーズに答えられていないという側面もありました。

これらの問題を解決するため、「学びと社会をつなぐ資格連動型キャリア支援プログラム」を計画し、文部科学省平成21年度「大学教育・学生支援推進事業(テーマB)」に採択されました。

ここに、3年間のプログラムの結果を報告し、一応の終了とさせていただきます。もちろん、この結果を踏まえ、課題も見つかったので、教職員一同今後とも新たなプログラムを開発していく所存です。

学びと社会をつなぐ資格連動型キャリア支援プログラム 文部科学省平成 21 年度「大学教育・学生支援推進事業（テーマ B）」

<プログラム概要>

本学の専門性の高い特色ある学びを社会の現場と結びつけるための資格連動型就職支援プロジェクトである。

資格取得支援自体は従来から多くの大学で実施しているが、専門性の高さゆえに学びの内容から一般的な資格取得がイメージしにくい本学では、学生が学びと就職を結びつけて考えることが少なく、これが進路決定率の低下や就職活動時のつまずきにつながっていた。これを解決するため、(1)学びに関連した資格講座の開講(2)学部・学科を越えた教員の交流会・研修(3)低学年から就職意識を育成するための社会人講演会の3点に取り組む。

学びと社会の現場がつながることにより、就職決定率の向上はもとより、学びに対する姿勢の変化や満足度の向上も期待でき、大学の知を社会に還元できる人材の育成を進めていく。

<到達目標>

- (1) 卒業生の進路決定率の向上
- (2) 学びや就職と関連した資格取得者の輩出増

大学での学びと親近性の高い業種に関連した講座を開講し、受講者や資格試験合格者を増やすことで大学での学びと社会の仕事の橋渡しを行う。全学的に取り組むことで、ゼミ教育や専門の学びを深めることにつなげ、学生の学びへの満足度も向上させる。

具体的には(1)進路決定率 79% (平成 20 年度)をプログラム終了時(平成 23 年度)に進路決定率 85%に増加させる。(2)資格取得講座の資格取得者 50 名を目指し、(平成 20 年度 8 名)1 年間の受講者人数は 200 名以上を目標とする。

<取組内容>

この取組の目的は、「大学での学び」と「将来の仕事」や「進路選択」を結び付けることである。大学での学びに関連した内容の資格講座を開講することによって、学生がより身近に「将来の仕事」や「卒業後の進路」について考える機会を提供する。

(1)学びに関連した資格講座の開講

資格関連課外講座の受講等をきっかけにして、単に資格取得者を増やすだけでなく、授業での学びや大学生活での取り組みに対する意欲の向上を図り、就職意識を涵養する。本学の特色ある学びと社会を結びつけることで、在学生の学びと学生生活の充実を図り、卒業後の進路意識を高め、将来の社会人生活を送るために必要な力を身につけることを目的とする。学びと社会の現場がつながることにより、進路決定率の向上はもとより、学びに対する姿勢の変化や満足度の向上も期待でき、大学の知を社会に還元できる人材の育成を進めていく。

(2)学部・学科を越えた教員の交流会・研修

本学のゼミ教育のスタンダードを確立するための交流会・研修を実施する。ゼミでの学生の議論する力や読み書きの力を向上させることが目的である。学部や学科の枠を超えて、教員同士が交流することで、ゼミや講義での教育力を高めていく。

(3)低学年から就職意識を育成するための社会人講演会

1,2回生を対象に「社会人講演会」を実施する。社会人講師を招き、実際の企業活動を学生に知ってもらうことを目的とする。学生の職業観を育成し、低学年のうちからキャリア意識・就職意識を育てる。

学びに関連した資格講座の開講

秘書検定講座

2009年度は2級講座、2010年度・2011年度は準1級講座を開講した。

就職活動や社会に出てからも役立つビジネスマナーが身につくとのことで学生に案内した。毎年15名程度の学生が受講している。特に臨床心理学科の女子学生の受講者が多い。

<合格者アンケート>

受講された理由を教えてください。

- ・マナーや敬語に自信をつけたかったからです。また、すでに秘書検定2級を取得しており、さらに上の級を目指したかったためでもあります。
- ・冠婚葬祭等の一般常識や敬語を身に付け、就職活動に役立てたかったためです。
- ・就職活動を始めるにあたってのマナー習得のためです。
- ・社会人としてのマナーが身につく、社会人になってからやアルバイトにも活かせることが出来ると思ったからです。

講座受講前と受講後で、それぞれの場面で変化があったかどうか教えてください。

1. 進路を考えるとき

- ・就職活動において活かせていると思います。特に、秘書検定と就活の面接は、基本的なマナーの点では共通しており、講座で練習している分、マナー以外の部分に集中して挑めていると思います。また、希望する業種や職種に関わらず、秘書検定は社会人としてのマナーについても学べるので、日常的に活かせる知識だと思います。
- ・入社試験の基礎問題（特に敬語表現）や面接では活かせていると感じます。また、履歴書に書けるので興味は持ってもらいやすい（話題に挙がりやすい）です。

2. その他（ボランティア・サークル等）

- ・電話対応や添え状などの資料作成では役に立ちました。
- ・アルバイトでの接客業務に役立ちました。

どのくらい自習時間を取られましたか。また、勉強方法やポイントを教えてください。

- ・1日、1時間程度勉強しました。隙間時間を見つけては、講座で学んだ覚えるべきポイントを復習していました。また、問題集をひたすら解きました。
- ・空いた時間に、問題集を何度も繰返し解いた。
- ・購入したのは、テキスト1冊と過去問題集1冊です。そのほかの過去問題集は、大学図書館所蔵のものを使用しました。毎日通学時間に、じっくりではなくパラパラ読みをし、学校に居て、授業のない時間は図書館で過去問題をとことん解きました（週3日くらい）。自宅学習として、每晚就寝前に頻出用語を覚えしました。筆記試験合格後は面接練習として、鏡を見ながら実践しました。
- ・図書館にも過去問題集があるのでそれを全部解きました。実際に問題を解くことが大切

だと思ったからです。宿題以外では試験日 2 週間前ぐらいから 1 日 3 時間ほど勉強していました。

講座を受講して良かったと思う点を教えてください。

- ・筆記では、よく出るポイントのみ集中して教えていただきました。実際テストでは、勉強していたところが結構出題されており、とても助かりました。面接では、ひとりひとりにあったアドバイスをしてくれました。また、他の受講生の良い点、悪い点を参考にすることができ、参考書ではわからない細かな部分や疑問をすぐに解決できるところが良かったと思います。
- ・世間で話すときに、敬語を正しく使えたことはもちろん、状況に応じて適切な対応を考えられるようになったと思います。
- ・他に受講生がいたことで「絶対に合格したい！」という気持ちを最後まで持ち続けることができたことです。筆記試験はよく出題されるポイントなどを知ることができ、効率的に学べました。技能分野は解答が多様なので、自身の考えがどの程度正解に近いのか添削してもらえます。面接試験対策は面接官役と受験生役でのロールプレイをしました。双方の視点がわかり、本番さながらの実践練習ができます。
- ・2 級までは自分の力で取得出来ますが、準 1 級は基礎の部分をきちんと理解していないと点数が伸びないと思います。私は 2 級を取得した際に誤って覚えていたところ、勘違いしていたところが多々あったので基礎から学び直すことが出来、受講して良かったと感じています。

今後チャレンジしたい資格はありますか。

- ・日商簿記や旅行業務取扱管理者業務などです。
- ・秘書検定 1 級に挑戦したいです。そのためには、英語などの知識も必要になるため、それらも学んできたいです。

これから資格取得にむけて頑張る後輩にアドバイスをお願いします。

- ・努力して勉強すれば、結果として表れると思います。頑張ってください。
- ・必ず生きていく上で、人と関わる時に役立つし、信頼関係にも役立つと思うので、どんな資格でも、受かりたいという気持ちで頑張してほしいです。特に、アルバイトで貯めたお金で受講すると、更にやる気が出ます！
- ・「合格したい！」という気持ちを常に持ち続けて、常に検定のことを意識してみてください。そのためには、通学時間を有効活用し、検定日までは、(いつもなら携帯やゲームを触っていた方は特に)パラパラ読みでも良いのでテキストを眺めてください。
- ・図書館には問題集が結構揃っているので利用することをオススメします。

旅行業務取扱管理者講座

国内業務のみからのスタートだったが、2010年度から国内・総合旅行とどちらも講座を開講した。観光業・ホテル業に興味がある学生の受講が多い。学科では文化人類学科からの受講生が多い。講座内容から文化人類学科の専門科目と関連が強く、実習やフィールドワークなど実践で活きているようである。

<合格者アンケート>

受講された理由を教えてください。

- ・就職活動に役立つかと思い受講しました。
- ・旅行が好きな先輩に勧められたのかきっかけです。

講座受講前と受講後で、それぞれの場面で変化があったかどうか教えてください。

1. 進路を考えるとき

- ・旅行業界に就職しようと考えた。
- ・就職を希望する業界に旅行業界が含まれた。

2. 大学での学び

- ・勉強方法にメリハリがつかえました。計画性が身につきました。

3. その他（ボランティア・サークルなど）

- ・サークル（京都の観光地を案内する団体）で役立ちました。話のネタが広がりました。
どのくらい自習時間を取られましたか。また、勉強方法やポイントを教えてください。
- ・平日は3時間ぐらい、休日はほぼ1日中していました。
- ・1日7時間ぐらいです。とにかく過去問題をやり、空いたときに暗記しました。
分からないことは積極的に先生に聞きに行きました。遊びの時間もちゃんと取りました。
講座を受講して良かったと思う点を教えてください。

- ・勉強しないといけない量が多かったから、計画を立てて勉強を進めることの大切さがわかりました。

- ・雑学的な知識から専門的な知識までいろんな知識が身につきました。そのおかげで視野も広がりました。

今後チャレンジしたい資格はありますか。

- ・色彩検定、販売士

これから資格取得にむけて頑張る後輩にアドバイスをお願いします。

- ・資格を持っていても、就職に役立つとは限りません。資格を取って、それをどれぐらい活用して生活を送るといことが大事になってきます。持っていても無駄になることはないの、どんどんチャレンジして行ってほしいです。
- ・とにかく在学中にやれることはチャレンジして下さい！興味が出たら挑戦することをオススメします。

日商簿記講座

2009年度は3級講座を開講したが、2010年度に簿記実務論が正課の授業で導入されたため2級講座に設定した。現代社会学科の学びと関連が強いため、現代社会学科の学生の受講者が多い。漠然と就職活動を考えている学生よりも明確に就きたい職種を考えて（事務職に就きたい学生が多い）受講している学生がもっとも多い講座である。3級・2級どちらも受講している学生は合格率が高い。

<合格者アンケート>

受講された理由を教えてください。

- ・大学の授業で簿記を学び、独学で3級の勉強をし、資格を取得しました。そして、スキルアップするため2級を取得しようと思いました。また、自分の将来に役立つだろうと思ったからです。
- ・スーパーのレジのアルバイトをしていて必要だと思い、3級に挑戦しました。2級の知識は日本の企業で多いメーカーで活かせると思い取得を考えました。

講座受講前と受講後で、それぞれの場面で変化があったかどうか教えてください。

1. 進路を考えるとき

- ・以前より、自分の視野を広げることができたと思います。
- ・会社の経営状態を調べられるので、売上だけでなく様々な所が分かります。就職活動をする上で、3級の知識を理解しておいて良かったです。企業の説明会で分からない用語が理解できるようになりました。

2. 大学での学び

- ・計算が早くなったり、現代社会学科の授業の理解が深まります。

3. その他（ボランティア・サークル等）

- ・部活動の会計の時に役立ちました。

どのくらい自習時間を取られましたか。また、勉強方法やポイントを教えてください。

- ・2級になると、商業簿記と工業簿記の両方になるため、考え方が変わり、はじめは慣れるまでなかなか難しかったです。予習はあまりせず、その授業内できちんと理解し、復習に力を入れていました。出来る限り1日に2時間勉強をするようにしていました。
- ・授業時間中に覚えきることを心掛け、1日では理解できないので時間を空けてリフレッシュして考えていました。

講座を受講して良かったと思う点を教えてください。

- ・6ヶ月間取り組み続けたことから諦めない姿勢がつかえました。
- ・就職活動の時に会社のデータが細かく分かります。

今後チャレンジしたい資格はありますか。

- ・簿記1級の勉強をしてみたいです。

これから資格取得にむけて頑張る後輩にアドバイスをお願いします。

- ・自分が興味を持ったことに関して、とことん追究して行って欲しいです。資格を取得するという結果もちろん大切ですが、取り組む姿勢を特に大切にしてください。高校生までの受身の勉強ではなく、自ら取り組む姿勢が大切になります。また、資格の取得だけでなく、様々な経験をして行って欲しいです。大学時代にしかできないことはたくさんあります。
- ・授業にしっかり出席すれば、資格は取れるから授業にしっかり出てください。

販売士 3 級講座

2010 年度からは正課の授業に「販売実務論」が開講され、さらなるステップアップを目指せるようにした。接客販売、営業などの仕事に興味がある学生や、流通・小売業界の業界研究を目的に受講している。また卒業後の就職先が販売業なので働くイメージや知識をつけるためや、資格をとっておくように言われたとのことで受講している 4 回生が毎年数名程受講している。

<合格者アンケート>

受講された理由を教えてください。

- ・就職活動に少しは役に立つと思ったからです。
- ・中小企業診断士の勉強をしたいと思ったからです。その為に必要な勉強が販売士の中にも入っていたので、どうせならと思いついでに資格を取ろうと考えました。
- ・内容が興味深かったからです。内定先の職種が販売なので役立てようと思ったからです。
- ・自分の中での選択肢を増やすためです。

講座受講前と受講後で、それぞれの場面で変化があったかどうか教えてください。

1. 進路を考えるとき

- ・小売・流通業など、この資格に関する業界に興味を持ちました。
- ・4 月から販売員として働くので、入社前の心構えができました。
- ・進路について向き合う時間が増えました。

2. 大学での学び

- ・勉強への取り組みが積極的になってきました。
- ・講座で勉強した内容を、授業理解・ゼミ・試験でのレポートの際に少しは応用できたと思います。

どのくらい自習時間を取られましたか。また、勉強方法やポイントを教えてください。

- ・土日に 3 時間程度していました。勉強方法は、ポイントの復習と予習でテキストを読み進めていました。
- ・週 4 時間くらいの時間を取りました。あまり時間をかけない様に要点を絞って、全体を理解することに集中しました。
- ・1 週間のうちに 6 時間いくか、いかないかくらい短かったです。講座内でやった過去問題や出された宿題をもう一度見直して、分からなかった用語をテキストの中から探し出してマーカーを引きました。
- ・資格試験前の 1 週間ほどは、1 日 3,4 時間くらいです。講座でチェックしたところを中心に勉強しました。

講座を受講して良かったと思う点を教えてください。

- ・ 講座の先生が面白い人だったので楽しく受講でき、頑張る事が出来ました。
- ・ 先生の考え方が良かったです。実際に私が目指している中小企業診断士の資格を持っている方だった為、考え方や、もし資格を取ったらどういう仕事をするのかという参考になりました。
- ・ 先生がとても勉強しやすい雰囲気を作ってくれたことです。ひとりでやるよりも皆で勉強したほうが躍起になります。販売士は就職にもアルバイトにも日常生活にも応用できます。
- ・ ひとつのことに集中して真剣にとりくめたことです。

今後チャレンジしたい資格はありますか。

- ・ 宅地建物取扱主任者、FP技能士
- ・ 日商簿記・漢字検定

これから資格取得にむけて頑張る後輩にアドバイスをお願いします。

- ・ 本気になればなんでもできると思うので、どんどん挑戦して行ってください。
- ・ 資格を取るのなら資格取得だけに焦点を絞って、無駄な努力をしない方が良いと思います。別の目的があれば資格取得よりもそちらの目的に合わせる事をオススメします。
- ・ 取ろうと決めたからには講座をきちっと受けて、忠実にやって欲しい。
- ・ 資格の勉強はとて素晴らしい時間の使い方だと思います。

ホームヘルパー2級講座

毎年受講者数が上位にくる講座である。受講生はほぼ臨床心理学科の女子学生が占める。福祉職に興味のある学生や、就職先が福祉職に決まっている学生など進路を明確に決めている学生の受講が多い。他の講座と違い、実技があるので初対面の人とグループを組み、作業に取り掛かることもある。ひとつの課題をグループで解決することで達成感を感じている学生が多い。

<合格者アンケート>

受講された理由を教えてください。

- ・一般的に好まれ難いホームヘルパーという職業に関わることで、自分自身の物事に対する新たな視点を得られるのではないかと思い資格の取得に挑戦した。
- ・介護職に従事していて、進路も介護施設であるため。高齢者福祉や介護の知識を基礎からしっかり学びたかったから。
- ・自分の家族に介護する必要がある場合に自分が正しい知識を持ち、率先して介護したいから。

講座受講前と受講後で、それぞれの場面で変化があったかどうか教えてください。

1. 進路を考えるとき

- ・実習に行って福祉の現場を知ることができ、進路を考える参考になりました。
- ・今回、講座内で様々なアドバイスをもらい、今まで分からなかったことが理解できたり、実習先などで活かすことができたので、これから何かやりたいことがあった場合、自分は本当にそのことについてやりたいのかを考え直し、自分の意見だけで判断し、実行せずに、周りの意見を聞き、そのことを参考にしながら、進路や物事を判断することを心掛けるようになりました。

2. 大学での学び

- ・私自身が臨床心理学科ということもあり、他者との関わりが重要になるなかで、高齢者などの心理について少しでも理解できたことは今後活かしていけると思う。
- ・大学では主に障がい者福祉について勉強しており、介護や高齢者福祉には正直あまり興味を持っていませんでした。しかし、この講座を受講してから、介護福祉の奥深さや高齢者福祉の面白さを教えて頂き、今更ですが新しい分野に関心を持つことができました。

3. その他（ボランティア・サークル等）

- ・この講座で、人間の生活の大事な基本を学べた気がきます。介護はこれでもかというくらい、他人のことを考え、思いやりの心を持ち、行うものでした。私も仲間や家族を大事にしようと思いました。
- ・ベッドメイキングや食事に関する事など、日常生活において活かすことができ、学校やサークルでは常に積極的に行動することを心掛けています。

どのくらい自習時間を取られましたか。また、勉強方法やポイントを教えてください。

- ・その日学んだ範囲を見直すこと。実技で行ったところはなるべく身体を動かしながら復習しました。
- ・その日学習したことを忘れないためにその日の夜は必ず復習し、教科書を読むぐらいの予習も必ずしていました。

講座を受講して良かったと思う点を教えてください。

- ・仕事のイメージが掴めるようになりました。介護職の実際が少し知ることができ、具体的な知識・技術が習得できた。
- ・話を聞くことも大事だが、やはり実際に実技や、実習に行くことで自分の目で見て、感じることがたくさんあるので行動に移せたことがよかった。
- ・受講している中には福祉の就職が決まっている方もたくさんいらっしゃり、色々なお話が聞けたとともに実際働いている先生の実体験が聞けてよかったと思う。

今後チャレンジしたい資格はありますか。

- ・精神保健福祉士
- ・社会福祉士
- ・ケアマネージャー

これから資格取得にむけて頑張る後輩にアドバイスをお願いします。

- ・迷っているならとりあえずやってみましょう。自分に向いているとか向いてないとか実際やってみないとわからないことはたくさんあります。休みは減るけれど、その分得るものは大きいし、得たときの達成感もあるはずですよ。
- ・講座は短期集中型なので体力的には辛いと思いますが、意欲や目標を持って取り組めば確実に乗り越えられます。違う学年や学科の友人もできますし、ゼミのような連帯感も生まれて楽しいですよ！学習意欲と休息を忘れずに頑張ってください。

PSW 基礎・直前対策講座

臨床心理学科対象の講座である。2009 年度は直前対策講座のみ開講し、2010 年度からは夏休みに基礎講座、冬休みに直前対策講座を開講している。基礎講座は低回生も受講しているが、直前対策講座は 4 回生のみを対象としている。本学から PSW の受験資格に必要な実習に参加できるのは 20 名となっており、学内で選考試験がある。その試験に備えて基礎講座を受講する 3 回生がほとんどを占める。

基礎講座では社会福祉士などの他の福祉の国家資格でも出題される共通科目を学習し、直前対策講座では PSW のみで出題される専門科目と共通科目を短期集中で総復習するカリキュラムになっている。

<合格者アンケート>

受講された理由を教えてください。

(基礎)

- ・大学院(臨床心理学研究科)進学希望ということで、PSW は隣接領域なので勉強になると考えたため。
- ・元々は臨床心理士になりたいと思っていたが、国家資格である PSW を知って、そっちのほうが自分に合うと思ったから。
- ・カウンセラーとして働くのではなく、精神障がいを持つ方の生活により近いところで働きたいと思ったから。

(直前対策)

- ・心理職や福祉職として働きたいと思っており、就職活動を行う上で有利だと思い、究めたいと思ったから。
 - ・大学に入るまで精神障がいを知らなかったが、大学での授業やボランティアを通して関心を持ったから。
 - ・大学での授業を受けるうちに福祉に興味を持ち、実際に福祉関係のアルバイトやボランティアをしてみて、PSW を目指そうと思うようになりました。
 - ・施設でボランティアをするようになり、福祉職に進むことを決めたのがきっかけです。
- 講座受講前と受講後で、それぞれの場面で変化があったかどうか教えてください。

1. 進路を考えるとき

(基礎)

- ・この講座を受ける前は、国家試験で具体的にどのような問題が出るか積極的に知ろうとしていなかったけれど、実際に問題に触れることで自分の現在の實力と今後何をしたいか見えないかが見え、進路選択の参考にもなりました。
- ・臨床心理学を学ぶ上での動機づけに役立った。

(直前対策)

- ・その資格を活かした仕事に就きたい思いがより強くなった。

2. 大学での学び

(基礎)

- ・以前は、資格関連科目の授業中も「ただ何となく聴いている」といった受身的な態度だったのですが、一度試験の全体を把握できたことにより、受講後は授業の中で得られる知識をより関連付けて学ぶことを意識するようになった。
- ・受講以前は授業を聞き流している部分があったが、受講した後は国家試験につながるものだと感じて、しっかりと授業を受けるようになった。

(直前対策)

- ・今まで授業で学んできたことを総復習することができました。

3. その他(ボランティア・サークルなど)

(基礎)・ボランティア先で視点が広がった。

(直前対策)・制度などについて、自分や家族にどのように関係しているか興味や関心が出た。

どのくらい自習時間を取られましたか。また、勉強方法やポイントを教えてください。

(基礎)

- ・講座で使用したテキストなどを活用して学習した。1日30分程度の時間だった。
- ・まだ本格的な勉強は始めていないが、関連する本を読むようにしている。

(直前対策)

- ・友達と問題を出し合いました。年表を作ることをオススメします。
- ・講座があった日の自習時間が1~3時間程度で、講座がなかった日は5~7時間程度だった。私は学校で友人と勉強する方法が合っていたと思います。友人と勉強する利点は、同じ目標に向かって勉強しているのでやる気が高められ、問題の出し合いができ、問題を出す方も答える方も覚えられます。欠点は話し始めるとずっと話してしまうことです。1人でするよりも友人と勉強をする方が楽しく勉強ができ苦にはならなかったです。
- ・講座以外では、4,5時間ぐらい取っていました。勉強方法は講座で講師の方が教えてくださいましたポイント部分を中心に復習して、その項目に関連のある過去問題を繰り返し解いていきました。

講座を受講して良かったと思う点を教えてください。

(基礎)

- ・国家試験を意識できたこと。特に、卒業前に国家試験を受験される4回生の先輩方と一緒に学べたことは良い刺激になりました。また、同回生で受験を考えている人とのつながりも深くなりました。模擬試験終了後に仲間内で採点したのですが、結果はみんな同じようなもので、ともに頑張っていこうという意識が強まったように思います。
- ・「受かりたい」という気持ちを強く持つようになったこと。現時点での自分の実力を知ることができたことです。

(直前対策)

- ・ 国家試験直前の講座だったため、教科ごとにどの部分をおさえる必要があるかを教えてもらったので、その後の勉強に役に立った。また、わからないところを直接先生に聞けることがよかった。
- ・ 国家試験直前で不安になっていましたが、講師の方々が分かりやすく内容やポイントを教えてくださり、苦手だった科目も少し苦手意識がなくなっていました。また、他のメンバーと講座を受けることで、自分にとって良い刺激となり、頑張ろうと思えることが多かったです。

今後チャレンジしたい資格はありますか。

(基礎)・ 秘書検定、ホームヘルパー、保育士など

(直前対策)・ 社会福祉士、カラーコーディネーター、アロマセラピーなど

これから資格取得にむけて頑張る後輩に向けてアドバイスをお願いします。

(基礎)

- ・ 受験範囲が広範なので、講座のテキストで勉強するならそれに絞るぐらいでもいいと思います。本番は受験時間が短いです。実際の受験時間でシュミレーションして、それを感覚的に知っておくのも勉強に役立つと思います。
- ・ PSW の受験を考えている学生にとっては、勉強を始めるきっかけになるかと思います。国家試験なんて難しそうと漠然と考え悩むより、まずはこの基礎講座でそれがどんなものなのか、その実際に触れてみてください。
- ・ 現場に出つつ、わからないことは自分で調べるなど、自分から行動を起こすことが大切だと思うので機会をうまく活かしていったらいいと思う。

(直前対策)

- ・ 始めは勉強する気にならずダラダラしてしまうと思うけど、早くから少しずつでも取り組んで下さい。自分が思った以上に、量が多いです。もっと時間があれば...と後悔しないように頑張ってください。勉強中、楽しい・面白いと思える時もあります。
- ・ もっと早くから勉強をやっとけばよかったと後悔が残っており、同じ思いをしてほしくないで、早い時期から少しずつ始めてほしいです。また、卒業論文や就職活動を早めに終わらせる方が勉強に集中できると思います。「自分は合格する」と強い気持ちを持って試験の日まで諦めず頑張ってください。
- ・ PSW は試験科目が多く不安だと思いますが、自分の得意、不得意科目をよく知り、できるところから問題をたくさん解いて自信をつけていくことが大切だと思います。また、試験までの長い期間を友達と問題を出し合ったり、一緒に時間を決めて勉強することで勉強の進み具合も違ってくるので、友達と勉強することも大切かなと思います。
- ・ 勉強はしんどいと思うけど、絶対自分のためになるので、めげずに頑張ってください。1人ではちょっとという時は友達と受けるのもアリです。友達と一緒に頑張れます！！

色彩検定 2・3 級講座

2010 年度から開講した。春学期に 3 級、秋学期に 2 級を連続して開講している。春から連続して受講することで達成感があるようである。

他の講座に比べて 1 年開講年数が短いにもかかわらず、一番受講者が多い。学生が身近に感じ、興味を持っている「色」のことなので合格率が最も高く、人気の高い講座である。

<合格者アンケート>

受講された理由を教えてください。

- ・前々から興味があったので受けようと思いました。
- ・何か資格を持っておきたいと思ったためです。また、資格に合格するという達成感が欲しかったので挑戦しました。
- ・今後、様々な場面で活用できると考えたためです。
- ・色彩心理に興味があったからです。
- ・元々、色が好きだったことと、色彩心理や色の持つ力にも興味があったからです。
- ・アパレルやインテリアに興味があるので、持っておきたいと思ったからです。それから色彩心理に興味があったからです。
- ・服、ファッションに興味があったためです。就職活動でアパレル業界を希望業界の一つとしていたので、企業へのアピール、また色彩効果や衣服への理解度を高めるためでもあります。
- ・趣味のためです。絵をかいたり、物を作ったりするのが好きなので、その際の配色をどうするかを決めるのに役立つと思いました。また日常生活でも、色に囲まれて生活するので、インテリアなどにかかわらず、色について知っておくことは役立つのではないかと考えたからです。
- ・ファッションやインテリア関連のことに興味があり、それらの配色は、どう使えばどのような心理的効果があるのかという知識を得る良い機会だと思ったからです。
- ・将来やりたい仕事で役立つと思ったからです。

講座受講前と受講後で、それぞれの場面で変化があったかどうか教えてください。

1. 進路を考えるとき

- ・特に意識はしていませんが、資格の勉強が自分の短所克服のためのものだと面接時に答えると会社は何かしらの反応を示してくれるので役に立っています。
- ・資格の欄に書けること。また、色の使いわけができるようになったので毎日役に立っている。
- ・資格講座で学んだことを活かせる業種を考えるようになり、選択の幅が広がった。
- ・就職活動の資格の欄に記入し、アピールになる。
- ・一時期は大学院に進学して、色彩について研究しようかと考えていました。(今は違う内容を決めています)

- ・ アパレルやブライダル業界を志望しているのですが、その人に合わせたコーディネートをする際にどういう配色が自然か、どういう色がその人に似合うかなど、その色を身に着けることでどういう効果が生まれるかなどこれから働きたい業界で活かしていけるのではないかと考えています。
- ・ 資格取得によりアパレル業界を受けてみようという気持ちが具体的になった。また就職活動の面接等で「なぜこの資格を取得したのか、取得に至った経緯」を質問されたことが何度かあった。(質問された業界はアパレル業界ではない)
- ・ ファッション業界の職業にも興味を持ちました。また、企業のホームページや広告、制服(規定があるところのみ)などを、どのように作っているか、どれだけ力を入れて考えているかなどを見る力が養われたと思います。
- ・ さらに興味ある業種につきたいと思った。

2. 大学での学び

- ・ 色という観点から心理学を見てみるとまた新たな発見が得られた。
- ・ 「アパレル流行論」の理解が深まった。
- ・ ゼミの発表で日本の国旗の色について考えたり、十二単の色の重ね方について考えたりしました。
- ・ 「アパレル流行論」「色彩論」の授業でさらに知識を深めることができた。得た知識を他の学びに活かすことはできなかった。というよりも自分の視野や発想が狭く、他の学びに活かすことをしなかった。今思うと何かしらに繋げることはできたかもしれない。
- ・ 「色彩学」の授業と併用して学び、理解が進んだと思う。
- ・ 授業での発表時などでパワーポイントを作成するとき、惹きつけるようにするにはどう作ればいいのか、色彩検定の知識は参考になりました。

3. その他(ボランティア・サークル等)

- ・ 学園祭の実行委員に所属しているので、学園祭で使う小物の色に気を遣うようになりました。またステージプロデュースというサークルでは、希望された色にそのまま従うのではなく、自分なりにその場面に合う色を提案できるようになりました。
- ・ 軽音楽部で広報班として活動しているとき、どういう色使いをしたらその月のテーマに沿うかとか、どういう色使いをすれば見やすいかなどの参考にできました。
- ・ 参考になる話ではないと思うが、所属しているバスケットボール部において活用したことがあった。夏の時は青の練習着を着用し、冬の季節は赤の練習着を進んで着用した。視覚から入ってくる色彩効果により、体感温度に影響あることを、講義で知ることができたので、その効果で周りの部員を爽やかに、時に暖かくさせることができた。また資格取得を考えている後輩に講義を受けて感じたことをアドバイスすることができた。
- ・ サークルで物を作る際の配色を考えるのに、役立ちました。
- ・ イベントの広報で主に活かせました。人の注目を少しでも集める配色はどのようなものかということを考えるときに、色彩検定の知識は参考になりました。

- ・私服を選ぶときに活かします。
- ・どのくらい自習時間を取られましたか。また、勉強方法やポイントを教えてください。
- ・与えられた宿題と、講座前の1時間半ほど復習していました。週2日で6時間くらい取れば十分だと思います。思っていたほど難しくないで、講師の方の話を聞いていれば簡単だと思います。
- ・試験の10日前ぐらいに必死に勉強したら合格しました。問題集を中心に勉強するのがオススメです。
- ・普段は週に2時間以上で、試験1週間前は1日1時間程度。勉強方法は、講座でわからなかったことを次の週までにクリアにし、わからなければ先生に聞いて克服した。電車通学なので、行き帰りは必ず、色カードを見て、複雑な色の違いを見分けられるようにしていた。
- ・1日1時間ぐらい、問題集をひたすら解きました。
- ・1時間程度。後半は過去問をひたすら解いて勉強しました。
- ・1日30分ぐらい...その日に出た宿題のために勉強しました。試験前の1週間で全体の知識を詰めました。授業をしっかり聞いてその時理解すれば、あとあとあまり勉強時間をとらなくても覚えていると思います。
- ・暗記が大事になるので、問題集に載っている問題を繰り返し解いて覚えること。3級で特に難しい応用問題は出てこないと思うので、数多く出る基礎的な問題を解けるようになれば、そこまで難しくはないと思います。
- ・1日2~3時間程度(宿題含む)。過去問題をひたすら解く。
- ・試験1週間前は3時間程度時間を取っていたが、課題以外に補習の時間は取りませんでした。毎回の講義に出席し、集中して取り組みれば合格できます。
- ・熱心に取り組みました。次の講義までに必ず復習しました。
- ・自習時間はあまりとっていません。講座内の時間で大体覚えられました。楽しんで学べば、短時間で覚えられると思います。
- ・主には、講座で課された宿題を元に、復習を多めに、予習を行っていました。暗記系のものが多かったので、とにかく暗記だったのですが、語呂などを考えたりして覚えたりしていました。自習時間は、講座受講の次の日に復習、講座受講の前日に予習で、各1時間程度だったと思います。
- ・週に4~5時間。何回も教科書を読みました。
- ・講座を受講して良かったと思う点を教えてください。
- ・一人では勉強できないので講師の方がいてくれることで安心でき、勉強にも意欲的になりました。あと、まわりに遅れると恥ずかしいのでその分頑張れます。
- ・独学ではわかりにくいところが多いので、受講するのがオススメです。覚え方や試験にしやすいところを教えてもらえるのはすごく助かりました。
- ・先生に丁寧に教えていただいたので、一人で勉強するより、とても心強かったことと、

楽しく勉強でき、自分の知識になった点です。

- ・試験にでるポイントを聞けたことです。
- ・先生がとても熱心で、面白く丁寧に教えてくれたのが良かったです。生徒ひとりひとりの名前も覚えててくださったし、欠席したらその時の回の大事なところを個別に教えてくださいました。
- ・普段の生活や就職活動で利用できるのよかったです。
- ・比較的取得が難しい資格ではないと思うが、「やることをやれば自分でも資格を取得することができるんだ」と気付くことができたのが、一番大きかったと思う。
- ・ニュースなどを見ていて、色の雑学的な知識を家族に補足説明ができるようになったことです。
- ・色に気を使うようになった事。同じ色でもこだわるようになった。
- ・試験に出るところをピックアップして教えていただいたことです。
- ・色について、さらに知りたいと思いました。
- ・ポイントを押さえて教えてくださるから、短時間でもよく理解できました。
- ・当然ではありますが、大学の授業だけでは知ることのできなかつたことを知ることができ、そして資格取得でき、とても満足しています。試験が近付くと、試験対策を中心に講座を進めていただいたことが、とても有意義だったと思っています。
- ・生活するなかで色は絶対必要なので、いろいろな場面で学んだことが役立ちました。
- ・自分に新しい観点が増えたことです。

今後チャレンジしたい資格はありますか。

- ・小学校の教員免許、販売士検定、Microsoft Office Specialist Access、TOEIC、ITパスポート、言語聴覚士。
- ・明石・タコ検定、介護福祉士、社会福祉士、ケアマネージャー、色彩検定2級
- ・ジュエリーコーディネーター、日商簿記、秘書検定、Microsoft Office Specialist Excel
- ・旅行業務取扱管理者

これから資格取得にむけて頑張る後輩に向けてアドバイスをお願いします。

- ・一番は親に資格取得の費用を出してもらわないこと。これに受からないと自分が出したお金の意味がないと思うと、どんなにきつくても「まあ、いっか」なんて思わなくなります。
- ・毎日の積み重ねが大事！！
- ・自習時間も大切ですが講座をとる場合、その貴重な講座の時間にいかに集中するかが大切だと思います。
- ・ただ覚えるのではなく、学んだことを理解し、私生活に取り入れていくことで自分のためにもなり、今後も活用していけると思います。最後まで諦めず、頑張ってください。
- ・過去問題を解いてしっかり理解すれば合格できると思います。

- ・資格は持っておくと、自分のためになるので損はないと思います。何か頑張りたいと考えている人には資格の勉強は手っ取り早いと思います。講座が二コマ連続で長いので、チョコレートとか買って持っていくといいと思います。
- ・「やることをやれば自分でも資格を取得することができるんだ」と気付けたことが一番大きかったと思います。また講師の方が非常に優しい方なので、取得後の活かし方や講義で気になったことは何でも質問できると思います。色彩検定で得た知識は身近な生活に活かすこともでき、色彩効果を使うことで私は夏は周りの人より2度涼しく、冬は2度暖かい生活を送っていると自負しているので、ぜひお試しください。
- ・興味のあるものは受けてみても、取得すれば履歴書に書けたり自分の強みになれたりするから、決して無駄にはならないと思います。
- ・毎回真剣に取り組めば合格できます。資格を取ることは大変かと思いますが将来必ず強みになると思うので、頑張ってください。
- ・毎回の講座を聞いて分からないところは、そのつど聞きに行くべきです。
- ・自分の成長のために資格取得をしてほしい。「学ぶことは楽しい！」それを忘れないで欲しいです。
- ・講座では知識を教えますが、それは最低の知識だと思います。それだけでは資格取得は叶わないです。講座で得た知識を資格取得のレベルまで高めるのは、講座以外でどれだけ理解を深めるかだと思います。

保育士講座

2009年度のみ開講。受験資格に大学に在学2年以上で62単位以上取得の必要がある。児童福祉や子どもとかかわるボランティアをしている臨床心理学科の学生が多い。ほとんど臨床心理学科の学生だが、他学科の学生も受講しており、将来の進路の選択の幅を広げている。最終の模試では15名中2名が合格しており、全国の合格率(10%)よりも上回る事ができた。

<合格者アンケート>

受講された理由を教えてください。

「子どもと関わる仕事」がしたいと考えた時に、保育士の資格は幅広く使えるということを知り取得しようと思いました。

講座受講前と受講後で、それぞれの場面で変化があったかどうか教えてください。

1. 進路を考えるとき

講座を受講することで、それまで意識していなかった「保育士」という仕事を意識するようになり、あまり迷うことなく進路を選択出来たと思います。

2. 大学での学び

より子どもについての分野を意識して勉強するようになったと思います。

3. その他(ボランティア・サークル等)

児童館のアルバイトでは子どもとの関わり方や声掛けの仕方などを考えるようになりました。

どのくらい自習時間を取られましたか。また、勉強方法やポイントを教えてください。

講座以外ではだいたい2~3時間勉強していました。ひたすらテキストを読み込んで先生が作ってくださった一問一答をやっていました。

講座を受講して良かったと思う点を教えてください。

試験に出るポイントなどをたくさん教えていただけたので勉強が効率良く出来ました。

これから資格取得にむけて頑張る後輩に向けてアドバイスをお願いします。

勉強は大変ですが子どもについて深く知ることが出来るので、子どもと接する時にとても役立つ資格だと思います。めげずに取得を目指してほしいと思います。

< 学びに関連した資格取得講座まとめ >

取組目標の振り返り

採択時に掲げた目標は最終年度の講座受講者人数を 200 名獲得、資格取得者 50 名を輩出とした。受講者人数は本年度 191 名受講し、目標達成率は 95%であった。資格取得者は 3 月 21 日現在 65 名でこちらは達成率 130%となった。3 月末にホームヘルパー2 級の合否結果がでるが、全員合格していれば資格取得者 97 名となる。

出席率と合格の関係

どの講座に関しても回数を重ねるごとにだんだんと出席率が下がってくる。各資格試験の難易度は様々だが、出席回数と出席率の負の相関関係が強い講座は合格率が低くなっている。合格している学生はやはり欠席回数が少ない、もしくは無欠席の学生である。合格者のアンケートにもあるが、講座内でしっかり理解し、復習に力をいれてコツコツ勉強することが合格につながったのだと言える。

正課の授業は同じ学科・学年の学生と受講することが多いが、資格講座受講対象者は全学科・全学年としており（PSW に関する講座は除く）講座によって偏りはあるものの正課の授業と少し違った雰囲気になる。他学科の学生や学年の違う学生と共に講座を受講することで、良い緊張感が生まれ、学生同士良い影響を与えあったからこそ資格取得者の目標を達成できたのではないだろうか。

具体的な成果

資格講座開講による具体的な成果として学習習慣の確立そして進路と向き合うきっかけになったことが挙げられる。

まず学習習慣の確立についてだが「勉強の仕方が分かって良かった」と、どの講座のアンケートにも書かれている。講座を受講することでポイントを絞り、効率よく学習を進めていくヒントが得られたようである。そうすることで試験にも合格し、さらなるステップアップを目指していく。さらに学習習慣が確立することで今自分がやるべきことがはっきりする。成果が見えてくることによって学習意欲の向上にもつながり、他の活動にも積極的にチャレンジしようとする。このように学習習慣の確立が良いサイクルを生み出しており、そのきっかけに講座があったのだと思われる。結果、試験に合格し、資格を取得出来れば良いが、結果が伴わない学生もいる。しかしその学生においても、「結果は出なかったがこれだけ頑張ったという自信になった」とアンケートに書いていた。

進路と向き合う機会になったことについては、講座内で現場でのエピソードや講師の経験について話があることによって自分が将来働いているイメージがわいたり、職種研究にもなり進路と向き合うきっかけになったのではないかと考える。

今後の取り組み

今後も学科に関連した資格講座を開講していく。平成 24 年度からは人間学部が総合社会学部に名称を変更し、「観光・まちづくり」「国際・日本文化」「経済・経営」「メディア・社会心理」「現代社会」と 5 つのコースを設置する。現代社会にさまざまな視点からアプロ

チできることが魅力である。また臨床心理学部のコースにも保育福祉支援コースが新しく設置され、教育・福祉の分野で臨床心理学を活かせるコースとなっている。学生の知的好奇心に合わせた内容にカリキュラムも改編されるため、資格取得講座もさらに学科の学びとつながる内容に検討していく。

学部・学科を超えた教員の交流会・研修

FD 委員会主催の FD 研修を教員・職員を対象に各年度実施した。

2009 年度

～ゼミ教育を高める集合研修～ 開催日：2010 年 2 月 22・23 日

- ・2 日間プログラムで実施した。
- ・若手教員を中心に 7 名が参加。ゼミや教授方法についての共通の悩みや工夫を共有しあった。各教員の課題を共有するだけでなく、「学生をどのように教育するのか」「大学としてどこまで関わるのか」といったテーマについて議論ができたことは意義が大きい。

～「落語」のテクニックを授業に生かす～ 開催日：2010 年 2 月 25 日

- ・桂出丸氏をお招きし、講演して頂いた。落語の話術を授業に活かし、教員のブラッシュアップをはかる。教職員約 30 名が参加した。高座をつくり、実際に落語をやっていただきながら、話し手と聞き手の距離感や心理などをお話し頂いた。お話しいただいた内容から「授業での学生との関わり」に置き換えて考えることができ、「学生を授業に惹きつけるには、どうしたらよいか?」「魅力的な授業のあり方とは?」という観点で、大学での授業改善に役立てた。

2010 年度

～大学改革における教職協働 ミドルアップ・ミドルダウンの必要性と課題～

- ・開催日：2011 年 2 月 17 日
- ・愛媛大学教育企画室副室長（準教授）秦敬治氏を講師にお招きした。秦氏は大学職員としての経験もある、現職の大学教員であり、まずは、教員・職員双方からの視点、思い、考え方を皮切りに、「教職協働の必要性が明らかである」ことをわかりやすくお話し頂いた。「リーダーズスクール」や「教育コーディネーター制度」など、愛媛大学での具体的な事例の紹介で、教職協働を行うコツをご教示頂いた。大学の規模や内容は異なるが、「教員だからできること」「職員だからできること」「それぞれが今後行うべき役割」が何であるのか考えるきっかけとなった。

2011 年度

～授業の中で UNIPA を活用した運営事例及び学生支援における UNIPA の活用自事例について～

UNIPA とは学生支援 web サービス「UNIVERSAL PASSPORT」の略である。

- ・開催日：2011 年 6 月 30 日
- ・阪南大学 北川 悦司 氏（准教授） 石畑 勝晴 氏（教務課 課長補佐）をお招きし、実施した。

講演会の冒頭で、本年度より基幹システムとして本格導入された UNIVERSAL PASSPORT を使った成績入力のレクチャーがあり、それに続いて阪南大学での事例紹介があった。まず、システム導入の経緯や運用の特徴を皮切りに、阪南大学での UNIVERSAL PASSPORT の使われ方や教職員の反応などを具体的な例示をあげながら、お話し頂いた。後半では、阪南大学のポータルサイト「HINT システム」の機能紹介や UNIVERSAL PASSPORT との連携の仕方・運用の実状などを中心にご説明頂いた。本学では 2011 年度より本格稼働したばかりで、まだ全体像までイメージできなかったかもしれないが、他大学での運用事例や運用にあたっての苦労話、今後の課題を拝聴することができ、「とても参考になった」という声から参加者から多数寄せられた。今後、実際に UNIVERSAL PASSPORT のいろいろな機能を使用していく上で、良い運用方法を検討するための参考になった。

< 学部・学科を超えた教員の交流会・研修まとめ >

各年度様々な FD 講演会を行い、教職員が一体となって大学を変革していくという機運が醸成できた。具体的には、授業評価アンケートを各学期末に 2 回実施し、学生へのフィードバックを行った。フィードバックの内容は学生・教員・職員に共有され、次年度の授業に活かす。また、人間学部のゼミへキャリアサポート課の職員が訪問し、進路指導を実施した。このように教員・職員の協働体制は確立されつつある。

プログラム全体の成果

「社会人講演会」は2010年度に採択された「文部科学省大学生の就業力育成支援事業」で代替実施をした。他2つは報告したとおりである。

この支援プログラムを採択した時に掲げた目標は、先に述べたように資格講座受講者200名獲得・資格取得者50名輩出、そして進路決定率85%である。

進路決定との関連

3年間の進路決定率(平成24年3月21日現在)

	2009年度	2010年度	2011年度
卒業生	404名	451名	415名
進路決定者	283名	320名	250名
進路決定率	70%	71%	60%
就職決定率	89%	87%	71%
資格取得者	53名	110名	65名

2009年度・2010年度は最終の数字、2011年度は3月21日現在

進路決定率 = 進路決定者(就職者 + 進学者) ÷ 卒業生

就職決定率 = 就職者(就職者) ÷ 就職希望者(就職者 + 就職活動継続中)

残念ながら進路決定率はどの年度も達成することが出来なかった。その要因のひとつとして考えられることが、基礎学力の低下である。語彙を知らない・誤字脱字なども見られるが、自分の経験や考えをまとめ、伝えることが苦手な傾向や、就職活動の選考にもある筆記試験に通過できないなどの傾向がみられる。進路決定において必要なのはもちろん学力だけではなく、人物(経験)も大切である。しかし学力に自信が持てないことや、自身の成功体験や何かひとつのことをやり遂げた、もしくは打ち込んだ経験がないことから、何事にも自信のない学生が増えている。さらに、学力向上・自信をつけるにはやはり自身の努力が必要であるが、その努力の仕方が分からない(勉強の仕方がわからない・何から手をつければいいのかわからない)という学生が増えている。

今後の取り組み

このような現状を打開するためにも、助成期間が終了しても、引き続き、社会と学びをつなぐ課外講座を実施していく。具体的には(1)資格講座の開講(2)学びと社会をつなぐキャリア系教育の開講である。3年間の取り組みを通して、単に資格取得を目的とするのではなく、資格取得のプロセスを通して得られたものが学生の自信につながっていくということが明確になった。また、何のために働くのか、働く目的について就職意識の涵養を目的としたキャリア教育の充実もはかっていく。

おわりに

当プログラムの終了にあたって、報告書の中にも一部記載しましたが、特に今後重点的に取り組んでいくべき課題について記しておきたいと思います。それは、この3年間各種資格講座を行なってきましたが、その前提となる「学びの動機付け」そして「学びの方法」の部分が欠けている学生が増加している、ということです。

「学びの動機付け」とは「なぜその資格を取得するのか」というきっかけの部分です。その資格が何をやる時に役立つのか、また「自分が何をしたいのか」という部分が希薄で、「就職に有利」ということに偏ったり、「何となく取っておいたほうがよさそう」というような自身の安心材料が目的になっています。もちろん、安心材料として資格取得することもあると思いますが、資格というのはあくまで手段であって、まず先に「自分がやりたいこと」がないと努力が続かなくなります。

また、「学びの方法」については、具体的に資格を取得するという場合に、自分がどの程度頑張らないといけないのかわからなかったり、予習、復習といった当たり前のことができない学生が増えたということです。これは入学時の学習習慣調査でもそういう傾向が出ており、いわゆる「受験勉強」を経験せず入学する学生が増えているということとも関係があると考えています。

しかし、この3年間でその傾向が一層強まったと思われ、これも資格取得以前の問題として解決していく必要があります。

これらの解決は、資格取得だけでなく、本学の教育を行なっていく上での課題と考えており、教職員一同で問題共有し取り組んでいきたいと考えております。